

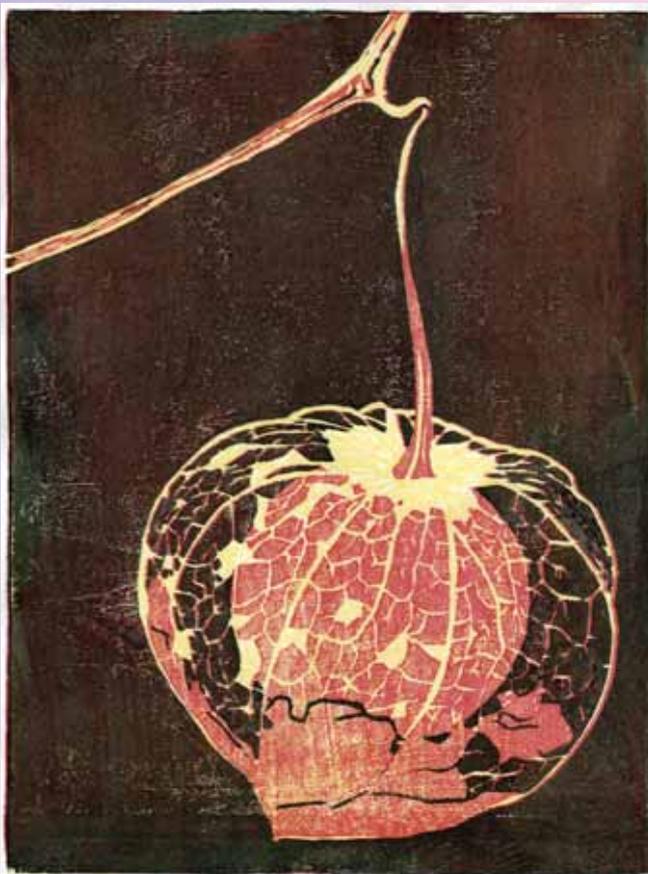
12<sup>2008</sup>  
December

弘前大学

# 学園だより

題字：遠藤正彦 学長

VOL.161



「ホオズキ」制作 人文学部学生 三上 綾子

I 特集「施設紹介」	2
21世紀教育センター	2
保健管理センター	3
総合情報処理センター	4
国際交流センター	6
学生就職支援センター	8
附属図書館	10
II 海外だより	12
III 研究室紹介	14
PLACE DE LA FRANCOPHONIE / フランコフォニー広場	
IV 総合文化祭報告	16
第59回弘大祭を終えて	
V 新任教員自己紹介	18
VI 掲示板コーナー	18
VII 編集後記	18

特集  
施設紹介



# I 施設紹介



## 21世紀教育センター

センター長 木村宣美

弘前大学は「21世紀教育(教養教育)」の目的を「21世紀を生きるうえで必要となる基本的な力を養うこと」と定め、この目的を達成するための科目を「21世紀教育科目」と呼んでいます。この21世紀教育科目を運営するのが、2001年10月に設置された「21世紀教育センター」です。このセンターのもと、2002年4月から「21世紀教育」が実施されています。

21世紀教育センターの目的は、「全

事項を審議するため」に「21世紀教育センター運営委員会」が置かれています。この運営委員会の委員が中心となり、「21世紀教育科目履修マニュアル」に基づき、21世紀教育ガイダンスや履修相談が行われています。また、総合教育棟1階の窓口で様々な相談に応じているのが、学務部教務課教務グループ「21世紀教育担当」です。さらに「21世紀教育に関する具体的事項を調査、企画、立案及び実施するため」

教育科目の「成績評価の方法と基準」が導入されています。また、FD・広報専門委員会は「21世紀教育に関する学生アンケート」を学期ごとに実施し、授業科目ごとの理解度や満足度等の評価や学習環境や運営体制に対する学生の意見を、点検・評価専門委員会は「授業担当実施報告書」により、担当教員の授業改善に関わる意見・要望や、授業の工夫に関する情報を集約し、21世紀教育の質の向上や改善のための資料として活用しています。また、「FDワークショップ(1泊2日の研修)」、「講演会」、「高大連携シンポジウム」、「4年生・卒業生アンケート」等、教育の充実と質保証のため、教員の職能開発(ファカルティ・ディベロップメント(FD))が組織的に行われています。なお、21世紀教育センターの活動や自己点検・評価の結果は、「21世紀教育センターニュース」・「21世紀教育活動・評価報告書」・「21世紀教育フォーラム」や弘前大学ホームページで公開されています。

「弘前大学における英語教育に関する基本方針」(2008年3月 弘前大学学士課程教育協議会)を受けて、「英語の新カリキュラム(素案)」の概要が7月に21世紀教育センター運営委員会で報告されました。卒業時の外国語能力の質保証を志向する取組みで、今後、具体的な作業が始まります。また、「学士課程教育の構築に向けて(答申(案))」(2008年10月 中央教育審議会大学分科会)を指針として、「三つの方針」(①学位授与、②教育課程編成・実施、③入学者の受入れ)の明確化を図り、社会からの信頼に応えるために、教養教育と専門教育の有機的連関を図りながら、学士課程教育の質を保証することが必要です。



学担当制による21世紀教育の実施に関する企画、立案及び調整並びに教育内容・授業方法の改善及び広報活動を行うとともに、21世紀教育に関する自己点検・評価を行い、本学における教養教育の充実、発展に寄与すること」にあります。21世紀教育センターは、センター長1名、副センター長4名、科目主任(当該領域または授業科目の運営に関し中心的な役割を担い、授業科目担当者グループをとりまとめる者)約100名で構成され、「21世紀教育センターの管理・運営に関する

に21世紀教育センター運営委員会に「専門委員会」(教務専門委員会、FD・広報専門委員会、点検・評価専門委員会)が、「21世紀教育の領域内授業科目に係る授業計画の立案、授業担当者確保等を行う」ために「科目主任会」が置かれています。科目主任は、学部が責任を持って推薦する体制が整えられています。

21世紀教育センターでは、教育の質の向上や改善に取り組んでいます。例えば、成績評価が教員の裁量に過度に依存することがないように、21世紀



# 保健管理センター

准教授 田名部 美雪

保健管理センターは、弘前大学のみなさんが「こころ」も「からだ」も共に充実した大学生活を送ることができるようさまざまな援助やサポートを提供する所です。

1949年（昭和24）の弘前大学発足当初、保健管理業務は厚生課保健係が担当、健康診断は医学部附属病院が担当していました。その後さまざまな変遷を経て、1967年（昭和42）に保健管理センターとして新設され、翌年施設が竣工。以後、学生・児童生徒・教職員の健康管理はすべて保健管理センターで行うようになりました。

現在の保健管理センター（通称、ホケカン）は、事務局と50周年記念会館にはさまれた場所にある、2階建ての建物です。入り口左側が受付になっており、受付窓口に声をかけると、スタッフが「どうしましたか？」「どういったご用件ですか？」と対応してくれます。



「からだ」の健康に関しては、医師や看護師などが健康診断、健康相談、応急処置などを行っています。健康診断証明書の発行も行っています。その他にも、身体や健康が心配な人、薬についての助言がほしい人、適切な医療機関を紹介してほしい方はご利用下さい。

また、自分の健康は自分で管理することも大切です。1階ロビーには、健康状態を自分でチェックできるように、自動血圧計、自動視力計、体脂肪計、身長・体重計などが置かれています。どうぞご自由にお使い下さい。

休養室もあります。寝心地のよいベッドが二つあるので、急に体調が悪くなった場合など、無理せずに立ち寄ってみて下さい。

「こころ」の健康に関しては、ホケカンでは、常勤カウンセラー2名、学外カウンセラー（水曜の午後）1名が相談に応じています。相談場所はホケカン2階、本町地区キャンパス医学部基礎校舎1階、総合教育棟1階「学生面談室」にあり、ゆっくりと話をす

ことができます。

対人関係で悩んでいる、恋愛でこころが揺れている、友人や家族に心配な人がいる、気分をコントロールしたい、将来に不安があるなど、さまざまなこころの悩みをお聴きしますので遠慮なくお訪ねください。「相談すると家族や指導教官へその内容が知られてしまうのでは？」という質問を受けることがあります。そのような心配は原則的にはありません。「原則的には」というのは、自傷他害の恐れがある場合には保護義務者に連絡して協力を仰ぐことがあるからです。つまり、そのような危険性がない場合には、相談に来た方の同意なしに家族等に連絡することはないのです。

「からだ」も「こころ」も自分で管理することが大切です。しかし、管理できるようになるためには、自分自身の「からだ」や「こころ」に関する客観的な情報を収集したり、専門家からの助言を受けたりということが前提となります。ホケカンとうまく付き合っ







使用する際は、センター規則、モラル、法律を遵守し、一流のマナーを実践してください。マルチメディアモバイルインターネットの浸透で、国境のない仮想社会が形成されつつあります。仮想社会とはいえ、インターネットは人間の営みに直結することから、知らなかったでは済まされない事態も起こり

得ます。そこで、例えばセンター規則では、ピア・ツー・ピア方式のファイル交換ソフトは使用禁止です。これは、著作権の問題と、学内ネットワークの渋滞を引き起こし他のユーザに迷惑をかけるというモラルの問題に配慮してのことです。不正行為に対して個人情報保護法が平成17年4月に施行され、

弘前大学には情報セキュリティポリシーがあります。

● 李娟

人文社会科学部 研究科1年

私にとっての総合情報処理センター

経済発展と技術革新にともない、いまやパソコンとインターネットは私たちの生活の中で欠かせない一部になりました。

去年、中国から来たばかりの時、アパートにインターネットがまだ開通していなかったので、大学ではインターネットを気軽に利用できることが幸いでした。すぐに家族と母国の友達に連絡したいと思うとき、私は留学生センターのパソコンを使って、Webメールで順調に中国語の手紙を出すことができました。これで私のことを心配してくれている父母が安心できると、本当にうれしく思いました!!

そのようなことを可能にしてくださっているのは、総合情報処理センターです。

センターは、理工学部1号館の裏側にある四階建ての建物です。目立たない建物ですが、大学で私

の好きな場所の一つです。

センターを利用する時に、分からないことがあってたずねれば、受付の方は家族的な温かさを感じさせる対応をして下さいます。

センターの2階、3階にある大きな実習室には、教育用パソコン、教材提示システム、プロジェクター、英語学習システム、プリンタ管理システムといった教育用の環境が整っています。3階の画像処理解析室に置いているパソコンにいろいろな画像処理に関連するソフトウェアが入っています。専門的な勉強にも、基礎的な勉強にも便利な環境を提供して下さいます。私はいつもこの場所を利用して

勉強で疲れた時に、よく2階のラウンジで休んだり、雑誌を読んだりして気分転換をしました。

情報処理センターの果たしている役割は、目に見える部分もあれ

ば、目に見えない部分もあります。たとえば、各学部、各研究科の建物の中で、ノート型パソコンでインターネットを自由に利用できる無線LANの環境の提供や、大学全体のITシステムの維持など、さまざまです。

いろいろな国から来た留学生のみなさんは、それぞれ母国のWebページを利用しています。学内で学生が利用できるパソコンであれば、全部同じ機能がついているそうです。また、留学生たちがその利便性を享受すると同時に、日本人の学生も海外のWebページへのアクセスなどが簡単にできるから素晴らしい。

国を離れて日本で勉強している留学生として、このような思いやりの行き届いたサービスを提供している総合情報処理センターに対して、感謝の気持ちを表したいと思います。



めいたします。ツアーは9月9日から18日の10日間に行われましたが前にもタイに関する予備知識やタイ語を学習するために、週一回の勉強会を行いました。

今スタディツアーではタイの主要都市のバンコクとチェンマイで日系企業、タイ大学訪問を行い、バンコクでは日本語を理解するタイ人と懇親会の時間を持つことができました。

まず工場見学はバンコクでソニー社、チェンマイで保谷ガラス社を訪問いたしました。両者とも日本を代表する企業で、工場規模も設備もそれに相応しいものでしたようでした。日系企業の日本人管理職との懇談では海外で働く充実感と難しさについて説明があり、学生からも多くの質問が出、改めて海外で働くことへの関心が高まったようです。今回のツアーではソニー社の好意により、取引関係にあるタイ航

空のスワナブーム国際空港の貨物ターミナルを見学することができました。なかなか一般では見学のできない物流の世界を垣間見ることができ、貴重な経験でした。

タイの大学はバンコクでタマサート大学、ブラパー大学、チェンマイでチェンマイ大学とパヤップを訪問いたしました。大学構内見学後、同世代の学生との交流の時間があり、タイ人の学生から日本についていろいろな質問があり、弘前大学の学生も改めてタイでの日本関心度が高い事を理解したようでした。タマサート大学の学生はツアーの自由時間になっている土曜日にも弘前大学の学生を市内観光に連れて行って、その後の両校の学生の友好関係を深めるきっかけを作ってくれました。

バンコクで日本語を理解するタイ人の方々と懇談では、ほとんどの方が

日系企業に勤める方であったので、タイ人側から見た日系企業について知る機会がありました。関係の良い日本人とタイ人でも文化の違いで摩擦が生じることもあるようで、外国で働くことのむずかしさを理解させられた時でもありました。

今旅行に参加した学生の後レポートでは旅行日程が少し詰まっていたので疲れたが、とても充実した時間が過ごせたと好評でした。ツアーに参加した学生の中にはタイへの留学を決めた者もあり、他の地域への留学も含めると半数近くの学生が短期留学を目指すことになり、今ツアーは国際感覚を養うことに十分役に立ったと言えます。国際交流センターでは今後ともこのような形でスタディツアーを毎年実行していくことにしていますので、ご興味のある方はぜひ国際交流センターへお問い合わせください。

## 交換留学に向けて

### ● 向中野友希

理工学部3年

私は現在弘前大学理工学部地球環境学科に所属しています。今年度3年生で、来年度1年間弘前大学を休学し、弘前大学の国際交流センターが募集している協定校のカナダのトンプソン・リバーズ・ユニバーシティ (TRU) に応募し、09年5月より12月末まで2学期留学する予定です。

私が長期留学を考え始めたのは、大学に入学した頃でした。中学・高校時代に短期海外研修の機会がありました。その時、行って慣れ始めたと思う頃に帰るとい感じで遣り残したという思いがとても強くありました。“もっと勉強してくれば良かった。”“もっと長くいたい。”次に行くなら絶対長期で留学したいと思いました。また、大学生活を送っているうちに論文・専門資料等、多くが英語で書かれていて、英語の重要性を再確認させられました。さらに、仲の良い友達が、高校卒業後すぐアメリカの大学に入学しました。よく連絡を取っていて、“新しいことばかりで毎日楽しい!!”、“世界観が変わる!!”ととても楽しそうにメッセージをくれます。彼女に

相談したら、“マイナスになることなんてひとつもない。今しかできないんだよ。”と背中を押してくれました。確かに社会に出てしまってからでは長期留学のチャンスは減ってしまうし、こんなに環境のよいところもないと思い、思い切って協定校交換留学にチャレンジしようと思いました。まず、両親に相談しました。“できること全部やって、結果が出たら応援するよ。”とってくれました。学科長の先生にもずいぶん相談ののってもらいました。“今、精一杯やってみなさい。応援します。”という言葉にとっても勇気付けられました。私にTOEFLのチャンスは一度しかありませんでした。試験の前、私は毎日毎日英語を聞き、読み書きを繰り返しました。試験時間はとても短く感じられ、あっというまでした。その後すぐに、協定校留学に応募しました。結果が出るまではとてもドキドキしていました。合格通知が来たときは、夢の中にいるようでした。応援してくれた両親・先生方・友達に報告したら、“本当におめでとう。でも、これが始まりだよ。

がんばってね。”とってくれました。私は多くの人に応援してもらっていることを改めて実感しました。留学が決まったら、英語の勉強に加え、国際交流科目の履修や留学生との交流を楽しんでいます。国際交流科目は、留学生と友達になれるだけでなく、自国の日本を違った見方で再度捉えることが出来ます。ひとつの言葉だけではみんな理解できない状況での授業はとて大変ですが、毎回新しい発見があるので楽しいです。留学生の友達もみんなとてもフレンドリーで明るく接してくれます。今は、留学が待ち遠しくもあり、不安でもあります。でも私はこの留学を絶対自分のプラスにしたいと思います。多くの人と出会い、話、そして、たくさんの新しい私を発見したいです。

留学をしたいと考えている皆さん、まず国際交流センターに遊びに行ってみてください。きっと、もっと留学したいという気持ちと、やる気が出てきます。そして、センターにいる先生方・スタッフの方・学生に声をかけてみてください。



# 学生就職支援センター

センター長 保田宗良

弘前大学が国立大学法人になった平成16年4月1日に、学生就職支援センターが設置されました。各学部における独自の就職支援を基本としながらも、学部間の情報交換、学部と全学的立場の連携を中心になって行う組織です。

センターのメンバー構成を紹介しします。最初はセンター長の下、各学部就職関連委員会の委員長を兼ねているセンター兼任教員、学務部学生課就職支援グループ、専任の就職相談員2名による体制で、その後専任の副センター長が着任し、学生課就職支援グループが学務部就職支援室へと改組をし、本年6月より就職相談員1名増を経て学生の就職支援にあたっています。

就職支援事業への取り組みは、豊富な企画を用意しており、それぞれを体系づけて学生に対して有益な支援を行っています。青森県内の様々な立場で活躍中の社会人に講義をしてもらうキャリア教育「社会と私」、(本年度は伊奈かっぺい氏の講義内容が民放で紹介されました。)自己分析ガ

イダンス、インターンシップ、就職応援ブックの配布、東京企業見学会・弘前大学東京同窓会会員との懇談会、業界研究会、個別企業セミナー・説明会、弘前大学合同企業説明会、就職相談(模擬面接を含む。)、公務員・教員ガイダンス等々、内容は潤沢です。総合文化祭でセンターを見学に来た他大学の学生が、驚愕していました。

県内企業(青森地域、弘前地域、八戸地域)との懇談会を開催し企業の方々との情報交換をする他、県内・仙台地域の企業や北海道地域商工会を訪問しています。就職情報の収集と集積・提示も大切な事業なので、本学のホームページからの、明確な情報発信を進めています。

学部学生の就職率は平成15年度79.8%、平成16年度89.4%、平成17年度93.3%、平成18年度95.3%、平成19年度卒業生については弘前大学歴代1位となる97.2%へと向上しました。

「読売ウイークリー 2008.8.3」に、就職に「超」強い大学400という記事

がありますが、就職決定者300人以上の大学で弘前大学は全国で48位であり、学部別の集計だと教育学部が全国で5位、人文学部が全国で6位、農学生命科学部、理工学部も農学部、理学部で集計されているので表には掲載されていませんが、それぞれの就職率を当てはめるとかなり上位にランクされます。主役の学生のがんばりの賜です。

就職応援ブックや合同企業説明会の冊子にりんごとハートのマークが印刷されています。これはセンターのロゴマークです。りんごは青森県を、赤いハートは訪れる学生や企業の方々へ応対するセンター教職員の精神を象徴しています。

今後も先ほど述べた企画を継続します。日時等詳細はホームページで確認してください。各学部の就職専用の掲示板を見れば、ある程度の内容は把握できます。

以前連携していた就職支援サークルの活性化、弘前大学生協との質の高いコラボレーション(学生の経済的負担を軽減する取り組み)は、今後の

山内美穂

人文学部4年

## 学生と企業を結ぶ就職支援センター

今の時期の三年生は自分自身の将来を見据えてこれから本格化する就職活動について徐々に考えているのではないかと思います。業界や職種選び、勤務地や採用状況等、様々な疑問や不安の中で自分自身について改めて考えることが必要となってくるでしょう。そのような時、私の経験から、学内の就職支援センターを利用することを勧めます。

私は就職活動の間、就職相談を利用し、特に相談員の岩澤さんには、幾度となくお世話になりました。就職活動の合間にエントリーシートなどの企業への提出書類の書き方から面接での対応練習、最

最終的に内定を承諾する企業選びまで数多くのアドバイスをいただき、時には遅い時間までも一緒に考えていただきました。私はこの就職相談から、僅かながら自分自身を客観視することができ、現在の学生の視点に、企業側から見られる社会人としてのあり方という視点も加えた上で、社会を考えることができたように思います。また、就職活動に一番大切な見聞を広げるきっかけをつくれました。毎日一喜一憂するような就職活動を支えてくれたのが就職支援センターです。

最近は景気の低迷から就職活動は一層困難になっているようで

す。しかし今は規模やブランド力で企業を選ぶ時代ではないと思います。自身の価値観や能力に合う仕事、やりがいというものを感じられる企業はどこかを見極めていく必要があるのではないのでしょうか。

就職支援センターには、就職に関する相談場所以外にも整えられた多くの企業情報や企業説明会の開催があるなど、学生と企業との第一の接点があります。訪れた分だけ手がかりが得られるような支援を提供している場です。最大限に活用することで、無難な就職活動ではなく、希望を見出した就職活動が進められると思います。



『学生就職支援センターの室内風景』

検討課題です。就職後3年以内の早期離職は大きな損失であり、学生時代のキャリアデザインが不十分であったと考えられるので、生協と「人間力」の育成を検討しているところです。

さて、団塊の世代の補充が終わり、アメリカ経済の低迷等により企業は2年後の人事計画が決められない状態になっています。少しずつ氷河期に向かおうとしています。学年が1つ違う

と採用人数が半減以上になる企業もありそうです。社会はより高い資質の学生を求めています。進路について悩みが生じたときは、センターまで来てください。共に進路を考えましょう。世の中うまくできたもので、コツコツ積み上げてきた人は必ず良い結果が出ます。

## 就職活動について

● 村上まみ

農学生命科学部4年

私は神奈川県出身です。来年からは希望通り、地元神奈川の板金加工機械メーカーに就職することになりました。私は充実した就職活動を行えたと満足しています。

2年生の頃、学内の就職支援センターが行っている「キャリアデザイン研究会」というセミナーに3年生に混じって参加していました。そのため早い段階から具体的に「働く」とは？「企業選び」とは？と考えておくことができました。

私は神奈川県での「地元就職」を希望していました。しかし、東北地方にいと関東の地元企業の採用情報がなかなか入手しにくく苦労しました。また、首都圏の学生

は活動が活発かつ迅速なため、リアルタイムで首都圏の就職活動に「参戦」することは地理的に不利でした。

就職支援センターでは求人情報の閲覧・先輩の体験談などを通して、弘前のアピールポイントを就職活動で自己PRとして活用することが出来ると考えるようになりました。また、希望の就職先に就職するためには早め早めの活動が大切だと気づきました。

そこで、3年生の夏休みを利用してインターンシップに参加しました。インターンシップを申し込む企業は実際の就職活動を想定し、具体的に条件を絞り込みまし

た。この段階から自分の企業選びの優先順位を決め、勤務地や待遇・社風など「入社したい企業」に絞って申し込みました。

結果として、インターンシップでお世話になったメーカーの人事の方に気に入っていただき、この企業に人事として入社できることになりました。もちろんこの企業以外の企業での就職活動も行っていましたし、入社する会社を決める時はとても悩みました。しかし、しっかりと自分のキャリアプランを考えておいたので、希望に合った企業を選ぶことができ、満足した形で就職活動を終えることが出来ました。



が、本館郷土資料の中から、8月25日に「津軽領元禄国絵図写」が発見された。当絵図は、従来の調査では現存が確認されていなかった国絵図の写なので、今後、史学の研究に大いに寄与するものと期待されている。加えて、本学の前身である「官立弘前高等学校

資料」1055点も、大学院地域社会研究科と人文社会科学研究科の院生の協力を得て調査・整理を行った。

4月以降、本館の利用に関するシステムの改善と本館所蔵資料の整理を平行して実施してきたが、いずれも館員諸氏の厚い協力と全学的な支援が支

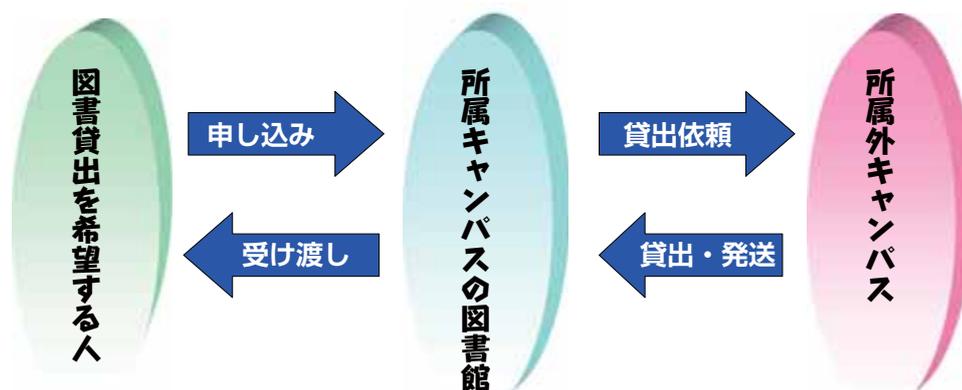
えとなって実現したものである。皆様にご感謝するとともに、上記の試みや事業を踏まえて、新たな出発を志している本館に対して、いっそうのご後援をお願いしたい。



## キャンパス間図書貸出サービス開始！

本館の図書←分館・分室より貸出申込 or 分館・分室の図書←本館より貸出申込

従来は医学部分館の図書は医学部分館へ、本館の図書は本館へ行かなければ、借りることができませんでした。この不便さを解消すべく、所属キャンパスで他キャンパスの図書の貸出を申し込み、受け取りできるサービスを始めます。



### ▼利用の方法・条件

#### ・申し込み方法

Web 依頼でのみ受け付けます。OPAC 画面左側の「文献入手支援サービス」より利用可能です。

※最初に利用申請をして、パスワードを登録してください。学生も利用できます。

#### ・貸出対象資料

図書館内に配置されている貸出可能な図書(雑誌や研究室貸出図書は対象外)

#### ・貸出期間

所蔵館で直接借りた場合の日数とほぼ同じ(ただし、取りに来るのが遅ければ遅いだけ短くなります)

#### ・返却方法

①所属キャンパスの図書館から返却 または ②所属外キャンパスの図書館へ直接返却

問い合わせ先：弘前大学附属図書館

本館メインカウンター

内線 3162

医学部分館カウンター

内線 5231

保健学科分室カウンター

内線 5916

E-mail:jm3162@cc.hirosaki-u.ac.jp







# Ⅲ 研究室紹介

フランス語ホームページ <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/>

## PLACE DE LA FRANCOPHONIE フランコフォニー広場

2008年4月1日、フランス語ホームページ「フランコフォニー広場」をオープンしました。[PLACE DE LA FRANCOPHONIE] または [フランコフォニー広場] で Google 検索できます。

### きっかけはアンケート結果

昨年前期末に行った「フランス語：制度とシステムに関するアンケート」(21世紀教育・フランス語Ⅰ学習者対象 \*アンケート集計結果もサイト上に公開)の結果、条件を整えばフランス語の学習を続けたいという希望が大部分の学生にあることが判りました。ところが、各学部の外国語の必修単位を満たした後の語学の帯は、各学部教育カリキュラムの過密もあって、尊重されなくなっているのが現状です。そこで、後期開講のフランス語Ⅱの履修方法を変更すると同時に、履修したくても履修できない学生のモチベーションを維持できるよう、ホームページを立ち上げ、さまざまな情報を提供できればと考えました。さらに、弘前大学の学生のみならず、フランス語を「より学びたい」地域の人達を応援し、学びたい人同士のネットワーク創りや自律学習の支援になればと考えています。ホームページ効果が早くも表れたのか、偶然の要因なのか、継続してフランス語を履修した学生数は、本年度後期、飛躍的に増えました。



住所表示板写真を加工して創った"21区・フランコフォニー広場"の表示板デザイン(実際のパリ市は20区まで、もちろん21世紀教育の含みも)

### サイト名

PLACE DE LA FRANCOPHONIE のPLACE (プラス)は、「広場」の意味です。環状に発達した歴史あるヨーロッパの都市で、3本以上の道が交わることで自ずと生まれたのが「広場」です。FRANCOPHONIE (フランコフォニー)は、「フランス語圏」、「フランス語を話す人々」という意味の名詞です。つまり、

- 1) 母国語と第1外国語(日本では多くの場合、英語でしよう)という交差点に、フランス語という第2外国語(第3外国語...)の道が交わることで、どこか別の未知の場所とつながり、広がっていきけるような外国語学習の「拠点広場」にしたい
- 2) 「フランス語」「フランス(語圏)文化」を接点に、学生、留学生、地域に暮らしている人々を結ぶ、世代・職業・国籍を越えた文化交流ネットワークの広場にしたい

という願いが、このサイト名には込められています。

### 学生主体の運営を期待しつつ

非常勤講師、専任講師含め、21世紀教育フランス語担当スタッフ・人文学部フランス語担当スタッフでボランティア運営していますが、多忙をきわめる日常の仕事も抱えているうちに、パソコンよりもペン、E-mailよりも手紙が飛脚、メール会議は苦手のため通常のミーティングを好むというアナログ集団のため、編集作業・更新作業を依頼している弘大卒業生に多くを負っています。とにかくオープンすれば、ネット世界に強い最強の現役学生達が、運営に携わってくれるのではないかと期待していましたので、原稿の投稿はもちろん、ホームページ運営にもどんどん参加してほしいと思います。



トップページ：告知板 / Annonces

大枠の構造



**Avenue des Informations / 告知板**

- ・カリキュラム、仏検などの情報告知
- ・囲み記事として「ピックアップ情報(欧州委員会ニュースやFrench Bloom Net 等の記事紹介など)」



**Square des Interviews / インタビュー**



**Espace Francophone / フランス語の世界**

- ・フランス語スタッフによる思い出のフランス滞在記
- ・フランス語スタッフ・リレーコラム
- ・"電書"鳩通り(卒業生・在校生による、フランス語学習やフランス語圏留学の思い出、アドバイスなどのメッセージ)



**Point-Rencontre Hirosaki / 弘前&ふらんすねっと**

- ・留学生コラム
- ・弘前ふらんす事情
- ・Francophilie / ふらんこふいりー

構造の中核は、やはり「Espace Francophone / フランス語の世界」ですが、弘大フランス語ホームページならではの特徴は、「Point-Rencontre Hirosaki/ 弘前&ふらんすねっと」です。姉妹校からの留学生などが執筆する留学生コラムの翻訳は、日本人学生が取り組んでいます。「弘前ふらんす事情」では、弘前(地域)とフランス(語圏)文化との関わりを紹介し、意外に近い「弘前」と「フランス(語圏)」を感じてもらえればと思います。「ふらんこふいりー」には、弘大生以外

の地域の熱心なフランス語学習者からの投稿が寄せられています。

サイドバー見出しにマウスを置くと、日本語あるいはフランス語の吹き出しが出ますが、実は、日本語とフランス語の関係は直訳ではありません。たとえば、「電書」鳩通りのフランス語は「受信箱」通りなど。「袋小路」、「参道」、「ロータリー」などを効かせた命名が判るようになると、フランス語レベルも向上している証拠です。

**最後に**

ホームページは現在人文学部サーバー上にありますが、本来21世紀教育サーバー上に多言語実習の一言語として開設し、弘大ホームページから直接アクセスできるページにしていくなさと考えています。多言語教育の活性化の一つとしてフランス語教育の振興を目指しているスタンスを「インタビュー@国際交流センター」のページから、感じていただければ幸いです。

[文責：人文学部 熊野真規子]



フランス語受講生が翻訳に取り組んでいる留学生コラム



インタビュー@国際交流センターのページ

# IV 総合文化祭報告

第 59 回

# 弘大祭

を 終 えて

弘前大学学祭本部実行委員会  
委員長 藤本真由

10月24日から26日の日程で行われた、第59回弘大祭は「太陽」のテーマのもと無事に終了することができました。3日間を通して雨の予報となっていました。1、2日目は雲間から太陽が顔を出し、特設ステージで行

われたイベントも好評を博していました。3日目は天気が崩れてしまったものの、最後の花火まで無事にやり遂げることができ、3日間の総来場者数は5500人を越えるという盛況ぶりでした。

「太陽」には笑顔の<sup>でんぱ</sup>伝播という意味がこめられており、来場して下さったみなさまだけでなく、弘大祭に関わった全ての方に笑顔になってほしいという想いが込められています。私たちはそんな弘大祭を目指して、春から活動



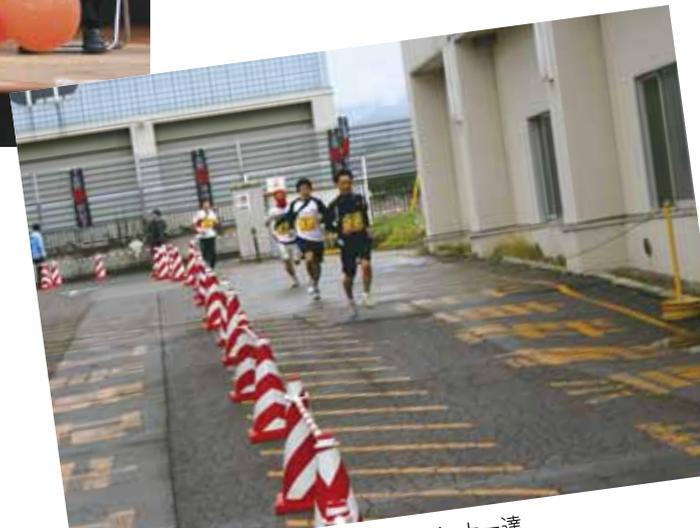
Opening Festivalの様



よさこい弘大に十和田市から参加した「とわだ馬花道」



近隣市町長による首長シンポジウム  
「産学官連携による地域政策」



学内の狭いコースを快走する駅伝ランナー達



を行ってきました。当日は親子連れや学生など様々な年齢層の方が見られ、なかには3日間通して来てくださった方もいるほどです。弘大祭が昨年以上に地域に根ざした大学祭になっていっていることが実感できます。

総合文化祭は、学生が主催する弘大祭と教職員が主催する学術文化祭が一体となった、全国でも希な大学祭です。今年で第8回目を迎え、模擬店やイベントも毎年規模が大きく

なっています。そしてもう一つの特徴が、学祭期間中は構内全面禁酒・禁煙を徹底しているという点です。ほとんどの学生は禁酒・禁煙を守り、安全な弘大祭が実現している状況です。ですが外部への告知が今ひとつ足りないらしく、外部からの来場者の中には知らなかったという方もいらっしゃいます。来年は今以上の告知と、みなさまのご協力が必要になってくると考えています。

来年はどんな弘大祭になるのでしょうか？まだ来年の弘大祭のカラーは見えませんが、今年以上に盛り上がりの見られることは間違いありません。学生のみならず、来年もぜひ弘大祭に参加してください！そして弘大祭をみんなの力で盛り上げていきましょう!!来年が今から楽しみです♪



弘前大学YOSAKOIサークル hirodai 焰舞陣



賑わいを見せるお祭りストリート



小学生に独楽回しを教える大道芸サークルの学生



音楽系サークルによるコラボコンサート

## V 新任教員自己紹介



### 人文学部

文化財論講座 講師 上條信彦

日本考古学研究室の講師に就任した上條です。専門テーマは、先史時代における食料加工技術の研究です。当時の人達が、どのように生きてきたの

か、特に食べることを中心に研究しています。ここ青森には、三内丸山遺跡や亀ヶ岡遺跡など日本を代表する遺跡が数多くあります。海外研究や実験、自然

科学的分析の経験を生かし、先生や学生とともに、この地域の具体的内容を明らかにしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## VI けいじばんコーナー

平成20年度

### 弘前大学芸術祭

弘前大学劇研マップレス ユニット「劇団キリトリ」

公演『だってここにはあのひとがいた』

入場無料

平成21年1月23日(金) 17時40分～19時00分

平成21年1月24日(土) 12時40分～14時00分

弘前大学 大会館 3階 303集会室

弘前大学混声合唱団 第46回定期演奏会

平成21年1月24日(土) 18時～20時

弘前文化センター ホール

(入場料 当日券500円 前売り券400円)

弘前大学教育学部美術教育講座

平成20年度卒業研究・制作展

入場無料

学内展

平成21年2月5日(木) 10時～19時

平成21年2月6日(金) 10時～19時

平成21年2月7日(土) 10時～17時

平成21年2月9日(月) 10時～13時

弘前大学 大会館 3階

学外展

平成21年2月21日(土)～22日(日) 11時～19時

スペース・デネガ(ギャラリー&スタジオ)

弘前市上瓦ヶ町11-2

入場無料

問い合わせ先

弘前大学芸術祭実行委員会

【事務担当】学務部 学生課 課長補佐 三浦信義

電話 0172-39-3112 FAX 0172-39-3119

jm3112@cc.hirosaki-u.ac.jp

## VII 編集後記

「学園だより」を毎号待ちに待っている人は皆無に違いない。前号の編集後記にも書かれていたが、読みたいという魅力的な内容でないからである。

大学の広報誌であるので、大学にとって少しでも都合の悪いことは書いてはいけないらしい。しかし良い事ばかりでなく、それと同じあるいはそれ以上に好ましくないことがあるのも事実である。良い事ばかりを集めるから、内容が陳腐になり、真実性の乏しい面白みのない雑誌になってしまうのではないと思う。米国の業界誌には「読者の声」というようなページがあり、会社にとって都合の悪いことも積極的に載

せているものがある。10数年前、Adobe社が1-2年間無料でAdobe Magazineを送って来てくれたが、私は毎号そのページを楽しみにしていた。多くの好ましくないことを自ら世間にさらけ出し、それらを教訓として会社発展の土台を作り上げたのだろう。そのような社風であるからこそ、世界一級の会社に育ったとも言えるのではないか。

教職員・学生が無記名で自由に意見を述べる場があったらと思う。大学の一部の規則が好ましくないと思う人も多くいるかもしれないし、上からこのようにするからと言われたが実際には全く違うように報告され、強い不信感・不快感を持ったりする人もいるかもしれない。良い事は言うまでもなく、問題点も皆で出し合い、大学をより良くしていくための媒体として、この「学園だより」を真の広報誌として利用してみるのはどうであろうか。(KH)

# 弘前大学生協は KES審査登録 を完了しました

弘前大学生協は12月6日（土）にKESステップ1の審査登録を完了しました。

KESとはKyoto（京都）Environmental（環境）Standardの略語で、ISO14001と同様、環境改善活動ツールのことをいい、審査登録の完了はその規格基準を満たしていることの証明です。

KES審査登録完了は、「人と地球にやさしい社会の実現」を目標として環境活動に取り組んできた生協にとって、一つの嶺を超える輝かしい事績です。弁当容器回収やレジ袋削減等で一緒に活動してきた生協組合員や、諸々のご指導を賜りました弘前大学の皆様と共に祝いたいと思います。

生協は今後、KESステップ2審査登録へのチャレンジや、植樹イベントの開催・生協食堂の廃棄食材循環システムづくりなどを通した、キャンパス環境活動の推進・発展に貢献していきます。関係する皆様のなお一層のご協力、ご参加をお願い申し上げます。



【生協学生委員会の割箸リサイクルとキャンパス美化活動】



【KES 審査登録票】

オリジナルグッズ  
ニューフェイスをよるしく

## ひろだい アップルケーキ

弘前大学藤崎農場で育った  
りんごをシロップにつけて、  
ほくほくのアップルケーキ  
に焼き上げました

1ヶ 180円

サリジェ、シエリア、医学店にて取り扱っております。

## 出資金返還手続きは もうお済みですか？

生協ではご卒業される皆さんの出資金返還の手続きを受付中です。

### 【手続き日と返還振込日】

2009年3月31日までの手続きを完了された方  
⇒2009年5月26日のお振り込み

### 【手続き受付店舗】

- ・シエリア店、たびSHOP
- ・医学会館店
- ・経理店（組合員センター2階）

### 【手続き時に必要なもの】

- ・組合員証（T upカードまたはメンバーズカード）
- ・振込先口座番号がわかるもの（通帳等）

なお、弘前大大学院進学などで引き続き組合員加入される方は、身分変更の手続きが必要ですので、手続き受付店舗にお申し出下さい。

<お問い合わせ先>

**弘大生協総務経理**

0172-34-4806 (担当) 児玉、横山



## 弘前大学 学園だより Vol.161

2008年12月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、  
下記のアドレスまでお寄せ願います。  
e-mail: jm31113@cc.hirosaki-u.ac.jp  
弘前大学学務部学生課



### 国立大学法人 弘前大学 「学園だより」編集委員会

#### 委員長

山本秀樹(教育・学生委員会)

#### 委員

福田健太郎(人文学部)

菅田貴子(教育学部)

松谷秀哉(医学研究科)

扇野綾子(保健学研究科)

小松尚夫(理工学研究科)

比留間潔(農学生命科学部)

三浦信義(学生課)

佐々木忠(学生課)

印刷：ワタナベサービス株式会社